

## 第 129 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金
前	払	金	他	店	商	品	仮	払	金	車	両	運
支	払	手	形	買	掛	金	前	受	金	商	品	券
当	座	借	越	未	払	金	借	入	金	所	得	税
仮	受	金	引	出	金	売			上	仕		入
給		料	旅	費	交	通	租	税	公	課	支	払
支	払	利	息								手	数
											料	

1. 得意先高千穂商店より掛け代金 100,000 円の回収として、同店振出しの小切手を受け取り、ただちに当座預金口座に預け入れた。ただし、当座預金口座の残高は 30,000 円の借越しとなっている。
2. 商品運搬用の軽自動車 3 台@300,000 円を購入し、代金のうち半額については小切手を振り出して支払い、残額については翌々月から 5 か月の分割払いとした。なお、購入に伴い発生した手数料 60,000 円は現金で支払った。
3. 商品 100,000 円を売り上げ、代金は当店発行の商品券 80,000 円および他店発行の商品券で受け取った。
4. 従業員の出張にあたり、旅費の概算額 50,000 円を予め渡していたが、本日、出張から戻ってきたため旅費の精算を行い、残額 10,000 円を現金で受け取った。
5. 店舗にかかる固定資産税 100,000 円および店主個人にかかる所得税 200,000 円を、現金で納付した。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座借越 当座預金	30,000 70,000	売掛金	100,000
2	車両運搬具	960,000	当座預金 未払金 現金	450,000 450,000 60,000
3	商品券 他店商品券	80,000 20,000	売上	100,000
4	旅費交通費 現金	40,000 10,000	仮払金	50,000
5	租税公課 引出金	100,000 200,000	現金	300,000

・解説

1. 当座取引に関する問題です。当座取引に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つの処理方法が考えられますが、この論点は簿記 3 級の頻出論点ですので、どちらも必ず押さえておいてください。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制の解答手順

当座を増加させるような取引（売上や売掛金の回収など）の場合は、まず当座借越勘定があるかチェックし、あればそれを相殺した上で残りを当座預金勘定に計上します。当座借越勘定がない場合は、全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（仕入や買掛金の支払いなど）の場合は、まず当座預金勘定があるかチェックし、あればそれを相殺した上で残りを当座借越勘定に計上します。当座預金勘定がない場合は、全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

■当座勘定のみを使う 1 勘定制の解答手順

当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って処理します。機械的に処理するだけですので2勘定制よりも簡単です。

なお、2勘定制によるか1勘定制によるかは、必ずしも問題文に明示されるものではなく、本試験では使用できる勘定群から判断することもありますので、実際に問題を解く際は勘定群をチェックする癖を付けるようにしてください。本問も、当座借越勘定から2勘定制を採用していると判断します。

当座取引に関する問題は、第100回の間2や第103回の間5、第104回の間2、第105回の間1、第114回の間5、第121回の間5、第122回の間2でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

2. 固定資産の購入に関する問題です。この問題のポイントはズバリ「購入原価＝購入代価＋付随費用」ということが分かっているかどうかです。

車両だけに限らず、土地や建物、備品などの固定資産を購入した際に、不可避免的に発生した費用（付随費用）は**取得原価に含めて計算すること**になりますので、本問の「購入に伴い発生した手数料 60,000円」も取得原価に含めて処理します。

**購入代価 300,000円／台×3台＋手数料 60,000円＝取得原価 960,000円**

なお、商品売買取引以外で発生した未払債務 450,000円（＝900,000円÷2）については、買掛金勘定ではなく**未払金勘定**を使って処理します。

- ・商品売買取引に伴い発生した債権・債務 → 売掛金・買掛金
- ・商品売買取引以外で発生した債権・債務 → 未収金・未払金

固定資産の購入に関する問題は、第100回の間5や第101回の間4、第106回の間1、第109回の間3、第113回の間3、第116回の間2、第118回の間2、第123回の間3、第128回の間5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。同じような形式で繰り返し出題されています。

3. 商品券の授受に関する問題です。商品券は、発行時に「商品券」勘定を負債の部に計上し、当該商品券の返済義務が消滅したとき（ex.売上の対価として発行した商品券を受け取ったとき）に、反対仕訳を切ることになります。

☆商品券発行時の仕訳・・・①

(借) 現金など \*\*\*\* / (貸) 商品券 \*\*\*\*

☆商品券の返済義務消滅時の仕訳・・・②

(借) 商品券 \*\*\*\* / (貸) 売上など \*\*\*\*

一方、他店発行の商品券に関しては、受け取った際に「他店商品券」勘定を資産の部に計上し、当該商品券の受取権利が消滅したとき(ex.換金により他店発行の商品券が手元から出ていったとき)に反対仕訳を切ることになります。

☆他店商品券受取時の仕訳・・・③

(借) 他店商品券 \*\*\*\* / (貸) 売上など \*\*\*\*

☆他店商品券の受取権利消滅時の仕訳・・・④

(借) 現金など \*\*\*\* / (貸) 他店商品券 \*\*\*\*

ちなみに、本問の問題文の「代金は当店発行の商品券 80,000 円および他店発行の商品券で受け取った」は②③の仕訳に該当します。

★商品券の返済義務消滅時の仕訳・・・②

(借) 商品券 80,000 / (貸) 売上 80,000

★他店商品券受取時の仕訳・・・③

(借) 他店商品券 20,000 / (貸) 売上 20,000

商品券に関する問題は、第 103 回の問 4や第 104 回の問 3、第 114 回の問 1、第 118 回の問 5、第 120 回の問 2、第 124 回の問 1でも出題されていますが、本問(商品券の授受)と第 114 回の問題(商品券の精算)が解ければ、簿記 3 級の商品券に関しては十分だと思います。

4. 仮払金に関する問題です。本問はまず、問題文の「旅費の概算額 50,000 円を予め渡していた」という部分の仕訳を起こしてみるといいと思います。

(借) 仮払金 50,000 / (貸) 現金など 50,000

上記のような仕訳が切られたことを前提にして、仮払金を適当な勘定科目に振り替えることとなりますので、貸方に仮払金勘定が、借方に旅費交通費勘定・現金勘定が入ることが簡単に分かります。

★解答

(借) 旅費交通費 40,000 / (貸) 仮払金 50,000  
(借) 現金 10,000

■仮に旅費が 60,000 円だった場合は・・・？

→足りなかった 10,000 円の現金支出を認識することになります。

☆参考

(借) 旅費交通費 60,000 / (貸) 仮払金 50,000  
(貸) 現金 10,000

仮払金に精算に関する問題は、「**仮払いした際の仕訳を考えてみる**」ことがポイントになります。慣れるまでは実際に下書き用紙に書き出してみるといいと思いますが、慣れてきたらなるべく頭の中で仕訳をイメージして解答できるようにしておいてください。

なお、仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 115 回の問 5、第 119 回の問 4、第 124 回の問 4で出題されています。

第 100 回・第 110 回・第 115 回が「**仮払金の計上時の仕訳**」を問う問題になっているのに対して、第 119 回・第 124 回・第 129 回は「**仮払金の精算時の仕訳**」を問う問題になっています。

仮払金処理の一連の流れを理解したい場合は、【計上時の仕訳問題→精算時の仕訳問題】の順番で解くようにすると、流れが分かりやすくて良いと思います。

5. 資本の引き出しに関する問題です。本問は【**店舗にかかる固定資産税 100,000 円**】と、【**店主個人にかかる所得税 200,000 円**】とに分けて考えると分かりやすいと思います。

・**店舗にかかる固定資産税 100,000 円**

これに関しては租税公課勘定を使って処理するだけなので特に問題ないと思います。受験簿記では「**営業用資産に係る固定資産税→租税公課で処理**」と覚えておけばOKです。

★解答①

(借) 租税公課 100,000 / (貸) 現金 100,000

## ・店主個人にかかる所得税 200,000 円

店主個人にかかる所得税については店主の個人的な支出になりますので、会社が肩代わりして支払った場合は、資本の引き出しとして資本金勘定（または引出金勘定）を使って仕訳を切ることになります。本問は問題文で与えられている勘定科目の中に「資本金」勘定がありませんので、「引出金」勘定を使って仕訳を切ることになります。

### ★解答②

(借) 引出金 200,000 / (貸) 現金 200,000

①②の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。あと、本問には直接関係ありませんが、引出金勘定を借方に計上して資本金の金額を間接的に減らした場合、決算期末において引出金勘定と資本金勘定を相殺する仕訳が必要になりますので、参考までにご確認ください。

### ■引出金勘定を使って処理する場合

☆支払時

(借) 引出金 200,000 / (貸) 現金 200,000

☆期末時

(借) 資本金 200,000 / (貸) 引出金 200,000

### ■資本金勘定を使って処理する場合

☆支払時

(借) 資本金 200,000 / (貸) 現金 200,000

☆期末時

仕訳なし

資本金・引出金に関する問題は第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。